

#364 望みを告げる神のことば～福音所属によるカ～
ローマ人&ガラテヤ人の手紙より

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



皆さん、おはようございます。今日もムチャクチャ寒いので、「誰もけえへんのちゃうか」と思ったんですけど、こうやってお出かけ頂きまして感謝しております。

今 司会の方から“ひなたの道”という話がありまして、僕は今の連ドラは見てないので、ちょっと分からなかったんですが。

実は今、中学生の間にも薬物（覚醒剤とか）の問題が広がっていて、青少年に薬物が広がらないように活動している方が、中学生相手にこんな講演をしています。「もし悪い友達から『おまえもやってみろよ』と勧められたら、“壊れたレコード作戦”で逃げなさい。」

“壊れたレコード作戦”。おんなじこと言ったらいいんですって。「おまえもやってみろよ。」「だって…」「おまえ、勇気ないのか。」「でも…」「みんなやってるぞ。」「お母さんが…」「お母さんもなんも関係ないやないか。やってみろよ。」「だって…」

「この『だって…』『でも…』『お母さんが…』を延々と繰り返して、悪い友達が諦めるまでやりなさい。しまいには愛想つかされるから。それでも諦めないで、しつこく付きまとして薬物を勧めて来る人がいるなら、その時は逃げなさい。どの方向に向かって逃げたらいいか？ 光がある方に逃げなさい。悪いことをする人はみんな暗闇でやっているから、もし夜中であっても、明かりが灯っている所に向かって逃げて行きなさい。」

ひなたですから夜の話ではないと思いますが、聖書は希望の光を語っていますので、ぜひ皆さまにもイエス・キリストにある希望を受け取っていただきたいなと思っています。

私は絵を見るのが大好きで、天王寺で色んな特集があったら出来るだけ行こうとしているのですが、つい先だって、斎藤サトルさんという画家のお話を読みました。

非常に情熱的な画風の画家ですが、実は長い間造園業をやりながら、その傍ら趣味で描いてたんです。そしたら、熱烈なファンが現れて「ぜひ売ってください。」描く絵・描く絵が売れるんですね。

「これ、もしかしたら造園業やりながらじゃなくて、プロの画家として一本立ちでも行けるかもしれない」と思いながらも決心がつかず、ズルズルとやってたんです。

なんで決心がつかなかったのか？ 買ってくれたお客さんのコメントと自分自身の感想が、いつもちょっと違う。違うというか、例えば「僕は、ここのオレンジ色の色彩がいいなと思ってるんですよ。」

でも、斎藤さんの目には黄色なんです。「この人、おかしいんちゃうかな？」と思ってたら、買ってくれた人がみんな、自分の色の見え方と違う色を褒めてくれている。違う色に見えているみたい。見る人がおかしいとするなら1人だけのはずですが、皆がそうなので、思い切って眼科に行って目の検査をしました。

そしたらドクターから、「あなたは色覚（しきかく）障害です。いわゆる色盲（しきもう）です。微妙な色合いの違いが見分けられませんね。」色覚障害。この“障害”という言葉の重さというか、暗さというか、生き辛さというか。「そうか…、自分は色覚障害か。色がちゃんと見えていない、識別できないような人がプロの画家としてやっていけるのか…？」中々踏ん切りがつかず、迷って、友人の1人でありファンでもある人にそれを打ち明けたら、「そうか！良かったね。」えっ?! 何がええの？

「あなたは色覚障害なので、日本人離れした原色を多用してたんだね。タッチは日本人の繊細な筆づか
いだけど、色の使い方は原色が非常に多い。とても大胆。それが何とも言えない味を醸し出していて、他
の人には出来ないあなたの個性になってますよね。だから良かったじゃん。」
この言葉を聞いて「よし。勝負しよう。」今はもう、画家として活躍しているという話でした。

この友人は「色覚障害ですよねえ。だから良かった」と言ってるんです。お医者さんが「色覚障害」と言
うのと、友人が言ってくれた「それはあなたの個性です」というのは、ある色が見えないということにつ
いては共通しているけれど、友人が言ってくれた言葉ですごく自信を持ったというか、そこから人生が
開けて行ったわけですね。同じこと言うにしても、希望に繋がる言葉というのはね、やっぱりその人に
生きる勇気を与えるものになるんじゃないかなと思いつつ、その手記を読みました。

聖書の福音というのは、人間の生々しい現実について「あなたはこうだ！」と言うけど、人間に罪を指摘
したり、人間の問題点について鋭く迫る時は、必ず解決の道を語っています。
希望に繋がる言葉として人間に現実を語っていく。それが福音なんですね。
そこで今日は、もう何度も説明しているところですが、福音を分かりやすく説明している箇所を、まず一
緒に読みたいと思います。

ローマ人への手紙 6 章 23 節

罪の報酬は死です。しかし神の賜物(たまもの)は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

罪の報酬は死です。自分の罪というのが中々ピンと来ない、という方がおられるかもしれません。
自分が罪人かどうかは1つのことでハッキリします。死ぬかどうかです。
今読んだ箇所は、「人はなぜ死ぬものとなったのか？ それは罪があるからだ」と言っているんですね。
だから、罪がない人は死にません。しかし、全ての人は死につつある。ということは、死の原因である罪が
自分の中にあるということです。

ピッタリのたとえばどうか分からないのですが、私が愛読している雑誌『ナショナル・ジオグラフィック』。
写真がむちゃくちゃ綺麗な雑誌があるんです。私はネットで買って読んでるのですが、とにかくきれー
な写真なんですね。自然界の色んな神秘を解き明かしてくれる雑誌です。

数年前、ハリガネムシの特集をやりました。針金みたいな虫。ハリガネムシ。黒いゴム輪みたいな形で、
成長すると30-40 cmまで伸びます。ほんまに何の変哲もないような虫ですが、この虫の生態にすごく注
目して、解明していったフランスの昆虫学者がいるんですね。

なんでハリガネムシに注目したのか？ 昆虫の中でコオロギやバッタ、僕は嫌いだけどカマドウマって
分かりますか？ 気色悪いの。そんな昆虫たちがシーズンが来ると自殺する、という現象が昔から観察さ
れてたんですね。どんな自殺方法かというと身投げなんです。陸で身投げしても、彼らは軽いからどうっ
てことないんですが、川に投身自殺するんですよ。

自然界で、動物の世界でも昆虫の世界でも、自ら自分の命を絶つということは普通はない。
なのに、昆虫の中のコオロギやカマドウマは川に自ら飛び込んで溺死する。

なぜこんな奇怪な行動を取るんだろう？ それで、身投げした虫を集めて解剖したら、中からハリガネム
シがわさわさ出て来た。それで色々研究した結果分かったことは、ハリガネムシはコオロギの体の中で
成長して、コオロギの脳に作用する神経伝達物質を分泌し、自殺願望にコントロールする。
自分の体の中に棲みついているハリガネムシが自分の脳を乗っ取って、水に飛び込みたいという衝動を

与える物質を出し、内側からコントロールして身投げさせるということが分かった。ゾンビですよ。

なぜ身投げするのか？ ハリガネムシは元々水生生物なので、卵産むためには川に戻らないとダメなんです。そこで、養分取るだけ取って大きくなったら、そのコオロギを身投げさせ、水の中に入るや否や、内側から体突き破ってムニュ～って出て来るんですよ。それがね、美しいカラー写真で。

いつもはウツリ見てるけど、そのムニュ～の出方！ エグイ。もうあまりにも気持ち悪い。

ので、皆さんにも言いました。こんな気持ち悪いのを、私だけで取っておくのはたまらないことですよ。

そうして川に戻って卵を産んで、孵化して羽生やして、成虫になるとたいてい川の近くでバタバタ死ぬ。そこへコオロギやカマドウマがやって来て、このムシの死骸を食べる。食べてる時は美味しい美味しいと食らっているかもしれないけど、白雪姫の毒リンゴ。

それを食べるや否や、体（死骸）の中に卵があるので、一旦ゴックンしてしまったら、3か月後ハリガネムシがわさわさ繁殖して、内側から体を食い破られ、脳をコントロールされ、滅びに向かって、まるで自分の意思であるかのように引きずり込まれていく。これ、罪そのものだと思いますか？！

聖書は、私たちをお造りになった神を創造主と紹介しています。

この神様は良い方です。良い方からは良いものしか出ません。

良い方が初めに人間を造った時、その人間には罪も無い。死も無い。不幸も無い。良いものしかない。

しかし、最初の人間アダムが罪を食らったんです。罪を取り入れたんですね。

その結果、私たちはその子孫ですが、子々孫々生まれながらにして、ハリガネムシのような罪を自分の内側に宿した状態で生きている。そして、自ら不幸になるような選択や、自分を駄目にしてしまうような選択や、みすみす自分を滅ぼすような（破滅衝動みたいな）選択…。なぜそんなことするのか。

罪が私たちを滅びに引きずり込んでいる。引っ張って行かれている。

ハリガネムシを出すことはできません。コオロギがハリガネムシを食ったが最後、もう手の施しようがない。しかし人間の場合は、生まれながらの罪人に対して、神様は救済措置をちゃんと取っているんです。最初に申しあげましたように、聖書の福音は宣告だけではなく、希望に繋がるメッセージとして紹介されてるんですね。罪の報酬は死です。ここで終われば、聖書は絶望の書物ですよ。

しかし神の賜物は…。神さまのしかしが来る。

車を運転しててガス欠、ガソリン空っぽになってしまった。もう動かなくなってしまった。

しかし、ガソリンスタンドの中にいる。だったら全然心配ないですよ。

火事になった。どうしよう。**しかし**、目の前に消防車が来てる。だったら安心です。

やがて人類は大雨と洪水で滅びてしまう。**しかし**、ノアよ、箱舟に入りなさい。

どんなに悲惨な宣告が最初にあったとしても、神の**しかし**が挿入されると結論がひっくり返るんですね。

聖書の中には、**しかし神は**、という言葉がたくさんあります。**しかし神は**、の前には、たいてい悲惨な記述が続きますが、神はその悲惨な宿命論的なものをひっくり返してくださる方なんです。

なのでここでも、**しかし神は**、を考えたいと思います。

しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

神は私たちに素晴らしいプレゼントを与えてくださった。それは、**私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのち**。主とはキュリオス／神です。**キリスト・イエス**は人に付けられた称号。**イエス**は人の名前。

キリストは油注がれた者。救世主。救い主。

主キリスト・イエスということは、この方は神にして人である。100%主なる神である方が、救い主としてこの世界に来てくださった。

この方には何がありますか？ 永遠のいのちがあるんです。永遠のいのちは死を滅ぼすいのち。十字架にかかって死なれたけど、墓に葬られて3日目によみがえった、死を滅ぼすいのち。死を克服するいのち。それがキリスト・イエスの中にある。これを自分のものにするにはどうしたらいいのか。私たち自身が“キリストにある者になる”ということが大事なんです。

若者たちがスマホで色んなアプリケーションを次々活用してますけど、活用するためにはインストールしないとダメですね。どんなに素晴らしいアプリがあっても、自分の物にするにはインストールとかダウンロードしないとダメです。

この永遠のいのちの救いも、自分の内側にダウンロードする必要があります。それは逆に言うと、キリスト・イエスにあるということがその方法なんです。キリスト・イエスにあるためにはどうしたらいいのか、ということの説明したいと思います。

ガラテヤ人の手紙 3章 26節。キリスト・イエスにあるために、どうすればよいのかが書いてあります。**あなたがたはみな、信仰により、キリスト・イエスにあって神の子どもです。**

キリスト・イエスにあって／キリスト・イエスにある／キリストにあって。この言い回しが新約聖書にたくさん出て来るんですね。キリスト・イエスにあるとはどう意味なのか。ひと言で言うと、キリストに所属する者になる。キリストに所属するなら、キリストが持つておられる特権は全部自分のものになります。キリストに属する者になるなら、キリストの立場が私自身のものになります。ですから、私自身がキリストのものになる。これがとっても大事なことなんです。

所属について自分の YouTube でも話したことがあるのですが、所属ってすごい力を発揮するものなんですね。数年前 ある週刊誌の記事、歯医者さんの待合で読んで、思わずメモしてしまいました。“ある高齢男性に、思いがけなく財産が転がり込んで来た”という記事です。俺には関係ないわと思いつつ、ちょっと読みながら、心に留まりました。

彼の奥さんのお父さんが15年前に亡くなって、その財産の1/4を彼の奥さんが相続しました。8年前 奥さんのお母さんが亡くなり、財産の1/2を奥さんが相続しました。お姉さんがいたので半分半分。2年前 お姉さんも亡くなりました。お姉さん夫婦には子供がないので、その財産の1/4を相続しました。そして、つい先だって奥さんが亡くなり、ご主人がその財産を相続しました。つまり、奥さんの実家の財産のほとんど全部が転がり込んで来た。3500万円と。そんなことまでメモしなくてよかったんですけど、思わずなんかメモしてしまったんですね。

奥さんのご両親やお姉さん夫婦とこの高齢男性は、あんまり親しくなかったそうです。別に喧嘩したわけではないと思いますよ。だけど遠くに住んでいたと思いますね。そんなに頻りに深い親交を持つことはなかった。しかし、親しかったのか、頻りに会っていたのか、仲良かったのか、そんなことは、ある意味どっちでもいいんです。なぜこの人に、そんなにもたくさんの財産が転がり込んで来たのか？ 奥さんの家族の中に所属していたから。奥さんの一族から見て親族の一員として属していたので、その財産が全部転がり込んで来た。

これが所属による力なんです。キリストにあるということは、キリストに所属するということです。

キリストに所属することによって、キリストが持っているもの～神の子の立場も、永遠のいのちも、天国の国籍も全て転がり込んで来る。という言い方はちょっと嫌らしい言い方ですが、受け取ることができるんです。

では、**キリストにある**（キリストの中に所属する）ためにはどうしたらいいのか。

ガラテヤ人の手紙 3:26 あなたがたはみな、信仰により、キリスト・イエスにあって神の子どもです。

キリスト・イエスに所属する方法は1つだけ。それは**信仰**だ。

イエス・キリストを自分の救い主として信じて受け入れる。これがキリストにあること・神の子どもにされること・キリストに所属することの唯一の手段だと語っています。

“信じる”を別の表現で。

ガラテヤ人の手紙 3:27 キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。

キリストにつくバプテスマ。これは儀式としてのバプテスマ（洗礼）を指していません。

儀式としてのバプテスマは浸礼（しんれい）と言って、水の中にざぶーんと浸けてブワーツと出て来るんですね。浸かったままだと本当に死んでしまいますね。だから必ず出て来るのです。

そのバプテスマではなく、少し専門用語になりますが、これは**聖霊のバプテスマ**。

イエス・キリストを信じた瞬間に、その人の内側で起こる霊的な変化のことです

信じた瞬間にキリストと一体になること。水のバプテスマを受けているかないかは関係ありません。

イエス・キリストを信じた瞬間に起こることで、キリストと一体とされた者とみなされるのです。

それが**キリストにつくバプテスマ**。聖霊によるバプテスマのことです。

受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。

キリストに所属することは目に見えない変化なので、それをなんとかリアルにイメージできるように、聖書は色んなたとえやなぞらえで伝えてくれていますが、キリストにあるとはキリストに所属すること。キリストに所属するとはキリストを信じること。キリストを信じるとは**キリストを着ること**。

私は昨年12月、中の島中央公会堂でのクリスマス特別講演会に招かれてお話ししました。

関西（かんせい）学院大学グリークラブのOBが、クリスマスキャロルを歌ってくれたんです。総勢80名。

マスクして合唱ですよ。総勢80名で平均年齢80歳！声出るんかい！出るねん、これが！

見事に美しいハーモニー。関学のグリークラブ、有名ですよ。ウツトリと聞きました。

会場に入るのにドレスコードがあったんです。「男性の皆さん、黒か濃紺のスーツはやめてください。遠慮してください。堅苦しい雰囲気になるから。折角のクリスマスですから、お洒落して来てください。」

オシャンティ。どうする？私はやってみました。女性が胸に付けるやつ、何でしたっけ？ブローチじゃなくてもっと爆発してるようなやつ。そう！コサージュ！ゴールドン・コサージュ。

普通の格好にそれを付けてね。自分で。だって、それを付けて御堂筋線に乗るの、恥ずかしいもん。

こいつ、ナニもんや？思われるでしょ？

自分で脱いだ状態で付けたら、上手いこといかへんねん。上すぎたり下すぎたりして、悪戦苦闘しながらそれ付けて。みんなファッションジーンズとか、男性もそれなりにオシャレしてたけど、そんなに大したことない。日本の男は、もうちょっとオシャレをやったらいいんじゃない？私が言う資格ないんですけどね、ま、思ったんです。それで、ちょっとでもオシャレだったらどうぞ、ということでユレイ。

しかし、着るべき物を着てないと絶対に入場できない、そういう場面もあるんですね。

数年前、女子バスケットボール国際試合が南米で行われました。南米選手権ですよ。その時 アルゼンチン代表チームが、間違ったユニフォームを着て失格になるという不手際があったんです。その日の対戦相手はコロンビア。ユニフォームはブルー。同じ色だと見分けがつかないので駄目です。なのでルールブックに則って、アルゼンチンはアウェーでは白いユニフォームを着ることになっていた。にもかかわらず、ブルーを着て来たんです。どうなったでしょう？

ゲームさせてもらえませんでした。彼女たちは着替えを持ってなかったんです。国の代表ですよ。国家の威信を掛けて、ライバルのコロンビアと「さあ！試合！」…できません。コートに立てません。どうして？着るべき物を着てないから。一発アウト！

地上のイベントでも、ある物を着ていないために入場することすらできないという世界がある。ましてや神聖なる神様／罪を憎む神の前に、罪人の状態を露わにしたままで、罪丸出しにした状態で「神よ、私を受け入れてください」と言っても、それはかなわないことなのです。

どうしたらいいでしょう？ “キリストを着なさい” と書いてあるんですね。キリストを着たなら、神の目にはキリストのように見えるのです。キリストを着ることによって、まるでキリストが神に歓迎されているように歓迎される者になります。キリストを着ることによって、まるでイエス・キリストご自身であるかのように、神はその人を評価し受け入れてくださるのです。

では、“キリストを着る” とはどういうことなのでしょう？ どうしたらいいのでしょうか？
キリストにつくバプテスマを受けることです。信じることです。自分の救い主としてイエス・キリストを信じ受け入れることです。その時 自分には実感がなかったとしても、神様の目にはキリストを身にまとった者として映っている。

自分の失敗や過去を見ていたら、「ああ、なんであんな事を…」と、私も時々うなされることがあるのですが、でも、キリストが神に愛されているということは信じることができます。そのキリストの中に私が所属しているということは、私もキリストにあって 100%間違いなしに受け入れられているということなんです。

なので、ぜひお勧めしたいことは、**信仰により、キリスト・イエスにあって神の子ども**とされることです。難しくありません。「ありがとうございます。私のために死んでくださった方、墓に葬られてくださった方、よみがえってくださった方を私の救い主にします。どうぞ、私の中に入って来てください」と神様の前にぜひ願ってください。心からお勧めします。

ひと言お祈りします。
恵み深い父なる神様。**罪の報酬は死です**。ここで終われば本当に悲惨な宣告ですが、**しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです**という言葉に感謝します。あなたは全ての人に、この賜物を受け取ってもらいたいと願っておられる方です。
神様、ご来場の方の中に、また聞いてくださっている方の中に、まだキリストを受け取っていない方がいるなら、どうぞ信仰を与え、勇気を与え、決断を与えて救ってください。その人に神様のいのちが宿って、祝福の人生に入ることができるように導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン。

* 使用した聖書は『聖書 新改訳 2017』です。